

おおいた災害支援つなぐネットワーク（O-L i n k）

令和8年度 事業計画書（8月改正）

令和8年4月1日から令和9年3月31日まで

当団体が目指すビジョン

◆災害時、大分県内の被災地・被災者が必要とする支援を、行政、社会福祉協議会、NPO・ボランティア団体や企業等が連携し、迅速かつ的確に届ける社会づくりに貢献する。

◆『被災者中心・地元主体・協働』を原則に、災害時の支援を届ける『つなぎ役』として、被災者の生活再建と被災地の復興支援に貢献する。

を実現するために

【平常時ミッション】

- ①関係組織との情報交換、共有連携環境の構築
- ②発災時の迅速な情報収集、調整・マッチング体制の強化
- ③構成団体の災害対応力向上のための研修や訓練および人材育成

【災害時ミッション】

- ①初動時から被災地・被災者の状況や支援ニーズを正確かつ迅速に把握
 - ②フェーズに応じた適切な支援につなげるため県内外の関係組織との情報共有コーディネートを実施
- 設立2年目として上記のミッションを掲げ活動していく。

そしてそのミッション達成のために令和8年度から10年度までは以下の方針のもとに計画を立て実行していく

1. 事業実施の方針

I 関係機関との連携強化

- ①顔の見える関係づくり
- ②参加団体・企業の拡大
- ③行政・社協との信頼関係
- ④三者会議・市町村連携

II 災害中間支援組織の体制強化

- ①初動体制の確立
- ②財源確保
- ③意思決定体制
- ④コーディネート力向上
- ⑤関係機関連携

III 参加団体の育成

- ①災害対応力の向上
- ②三者共同による研修
- ③人材確保・育成
- ④事例共有

2. 当会の規約事業におとし込んだ実施に関する事項（8年度計画）

（1）平時に行う活動

事業名	具体的な事業内容 （優先順位ランクA・B・C）	(1)当該事業の 実施予定日時 (2)当該事業の 実施予定場所 (3)担当	(4)受益対象者の範囲 (5)目標成果	
1. 県内行政機関や各社会福祉協議会、支援団体および会員との常時情報連携や研修、訓練等実施	《ランクA》 I-① 顔の見える関係づくり Ⅲ-① 災害対応力の向上 Ⅲ-③ 人材確保・育成 ★「とよのくに会議（情報共有会議）」の開催、運営企画 ★0-Link 構成団体ヒアリング ★企業等訪問 ・建設業協会、建築士会、保険会社、技術士会など ★県内NPOボランティア団体アンケート ★6地域災害意見交換会 ※防災アドバイザーとの連携、情報共有研修などでできれば グリーンアップ大分アドバイザー（元環境教育アドバイザー）	とよのくに会議 (1)毎月1回 第4木曜18時 (2)事務所+オンライン (3)事務局 訪問・ヒアリング (1)～10月 (2)大分県内 (3)事務局、理事 アンケート意見交換会 (1)9～11月 (2)県内6地域 (3)事務局・理事	(4)不特定多数 (5)会員相互理解、支援ネットワーク団体拡大	
	《ランクA》 I-② 参加団体・企業の拡大 ★災害支援研修会開催 ・逃げ地図作成 ★災害支援訓練の実施 ・10/31 総合防災訓練参加	(1)研修会 8/19、9/13 訓練 10/31 (2)長浜オフィス、大分市内 (3)事務局、構成員	(4)不特定多数 (5)会員相互理解、強固なネットワーク形成	

	《ランクA》 I-③ 行政・社協との信頼関係 ★市町村防災部署定期訪問 ★大分市社協、佐伯市社協、日出町社協とのボランティアネットワーク訪問継続 I-④ 三者会議・市町村連携 ★大分県・大分県社協との情報連携会議年3回開催	(1)随時 (2)大分県内 (3)理事・事務局 (1)年2回 (2)大分市内 (3)理事・事務局	(4)県3課、県社協（市町社協）、大学CERD (5)災害対応について情報共有やスムーズな実働	
2. 全国の災害支援団体や中間支援組織、災害関連団体との情報交換を常時行い、支援活動の情報を共有する	《ランクC》 II-⑤ 関係機関連携 ★他県の情報共有会議、九州災害中間支援連絡会への参加	(1)年1～2回 (2)担当県 (3)理事・事務局	(4)10人前後 (5)災害中間支援組織の役割や行動のフィードバックや連携強化	
	《ランクB》 II-⑤ 関係機関連携 ★「ぼうさいこくたい2026 in 鳥取」（10月17、18日）への参加、情報収集	(1)10/17～18 (2)鳥取県 (3)理事・事務局・構成員		
	《ランクB》 II-⑤ 関係機関連携 ★全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVODA）フォーラムおよび情報連携会議参加	(1)年1回フォーラム、毎月1回 (2)東京、オンライン (3)理事・事務局・構成員		
③県内外の災害・防災に関する事象を記録し、平時の活動とあわせたホームページやSNS、出版物等での広報を行う（情報発信）	《ランクC》 III-④ 事例共有 ★ホームページの修正更新、会員SNSグループでの情報交換 ★事務局での災害に関する資料整理、閲覧	(1)随時更新 (2)WEB上 (3)事務局・理事	(4)不特定多数 (5)的確な情報発信や見える化による信頼構築	

④県内外の被災地ですぐにボランティア活動に着手支援できるように、レスキュー資機材の備蓄状況の把握と情報共有をする	≪済≫ ★スマートサプライの活用 「とどけよう大分」の運用整備 ≪ランクC≫ II-⑤ 関係機関連携 ★県社協備蓄情報共有 ★NPO団体備蓄情報共有	(1) 1～3月 (2) 大分県内 (3) 事務局	(4) 被災地域 不特定多数 (5) スムーズな被災地支援に取り組む	
⑤災害発生初動時に機動力を発揮するため、人材派遣の必要性を把握する災害先遣隊要員、及び支援団体や行政など関係組織の連携調整を図るコーディネーターの育成	≪ランクB≫ II-① 初動体制の確立 II-④ コーディネート力向上 ★被災者支援コーディネーターの募集、養成研修 ⇒東部、北部、南部ブロックに地域リーダー（コーディネーター）設置 ★被災者支援および専門的災害ボランティアの募集、養成研修 ★災害中間支援組織としての行動マニュアルの作成、初動対応マニュアルの作成	(1)～3月まで (2) 大分県内 (3) 理事・事務局・構成員・一般	(4) コーディネーター 3～5名 研修10名 (5) 災害時に迅速に活動できる人材による支援の漏れ無駄の減少	
⑥その他	≪ランクA≫ II-② 財源確保 ★民間助成等に申込み、財源の確保を行う II-③ 意思決定体制 ★理事会議定期開催	(1)～3月まで (2) 大分県内 (3) 理事・事務局	(4) (0-Link) (5) 持続可能な運営	

(2) 災害時に行う活動

事業名	具体的な事業内容	(1)当該事業の 実施予定日時 (2)当該事業の 実施予定場所 (3)担当	(4)受益対象 者の範囲 (5)予定人数	
①災害発生初動時に派遣する先遣隊情報を基に、必要な支援状況の把握を行う	・被災地での情報収集活動	(1)災害時発生から (2)被災場所 (3)先遣隊および事務局	(4)被災地 (5)不特定多数	
②応急時、復旧・復興期とフェーズが移行する段階その時々に応じた支援調整を行う	・「とよのくに会議（情報共有会議）」の開催呼びかけと運営実施 ～県内外からの支援情報等の収集及び発信	(1)災害時発生から (2)被災場所 (3)先遣隊および事務局	(4)被災地 (5)不特定多数	
	【佐賀県大規模火災被災者支援】 ・つながるバスツアー ・つながるネットラジオ配信	(1)R8.4～ (2)佐賀県 (3)事務局	(4)田中地区内外 (5)不特定多数	
③支援団体などへの情報共有と支援団体間のコーディネーションを行い、支援活動を実施するための資材・人材などを効果的に投入する	・「とよのくに会議（情報共有会議）」の開催呼びかけと運営実施 【継続実施】 ・三者連携の災害連絡会議の開催呼びかけと運営実施、ニーズの共有 ・災害支援以外のNPOへの活動場面での協力依頼～避難所や仮設住宅でのコミュニティづくり、孤独孤立の解消、炊き出し支援が可能な団体 ・専門団体との連携による被災者向けイベント企画運営、被災者向け復興関連相談交流会	(1)災害時発生から (2)被災場所 (3)先遣隊および事務局	(4)被災地 (5)不特定多数	

④構成団体ネットワークにおける支援ノウハウを基に、災害規模や地域の実情に応じた支援策提言と支援後の検証を行う		(1)災害時発生から (2)被災場所 (3)先遣隊および事務局、支援者・団体	(4)被災地 (5)不特定多数	
--	--	--	--------------------	--